

# 第2章 西東京市の状況

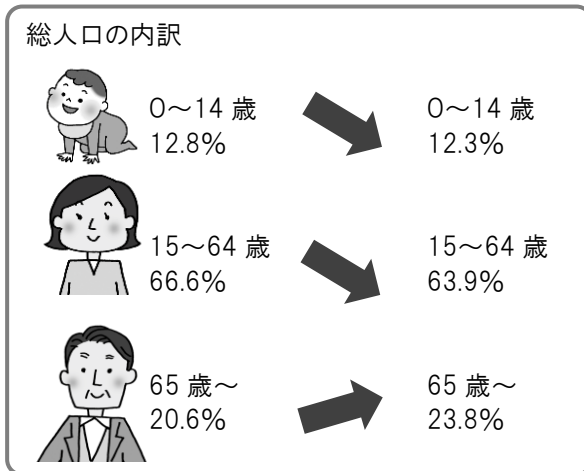


## 1 統計で見る状況

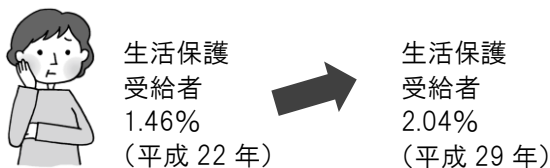
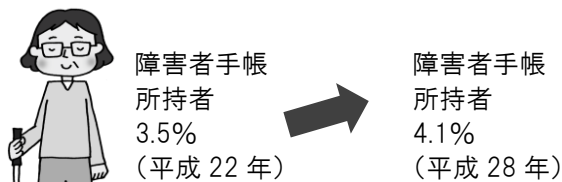
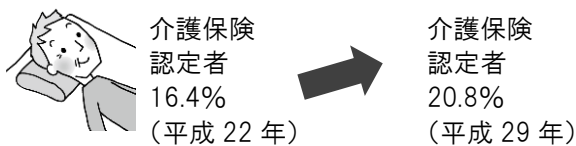
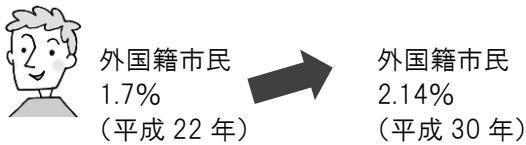
### (1) 人口の変化



総人口は増えています。

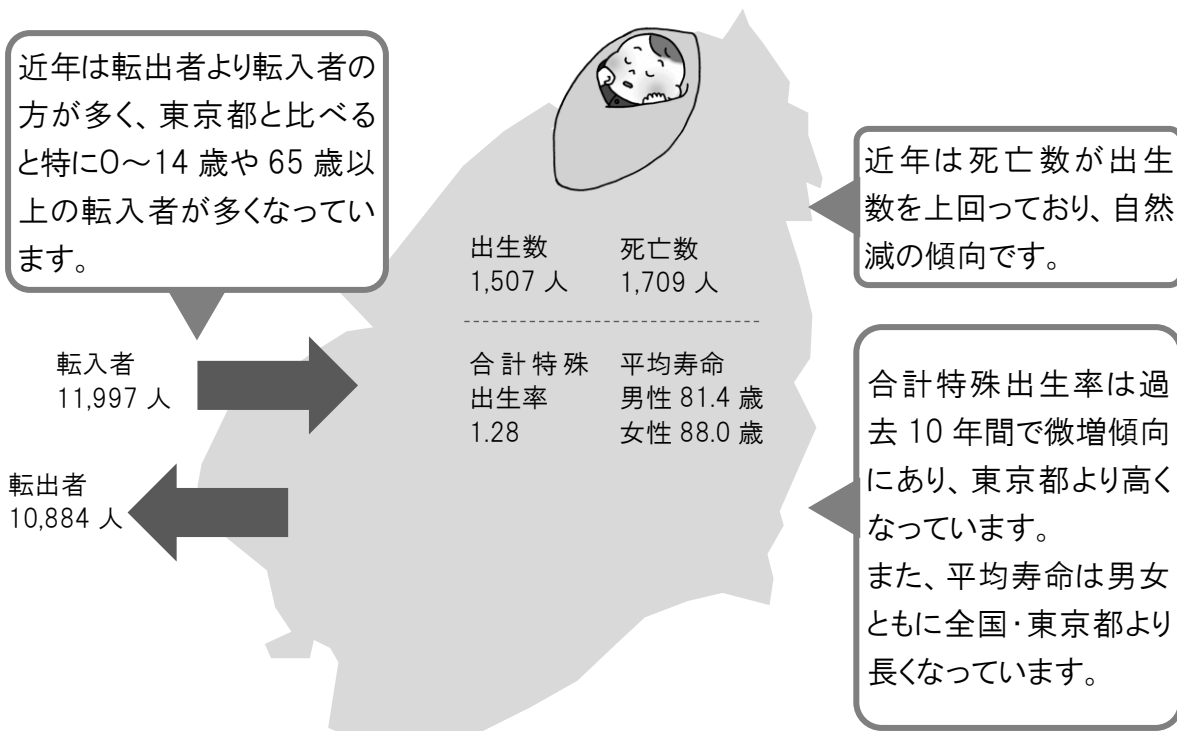


0~14 歳の年少人口、15~64 歳の生産年齢人口の割合は減少していますが、65 歳以上の高齢人口の割合は増加しています。

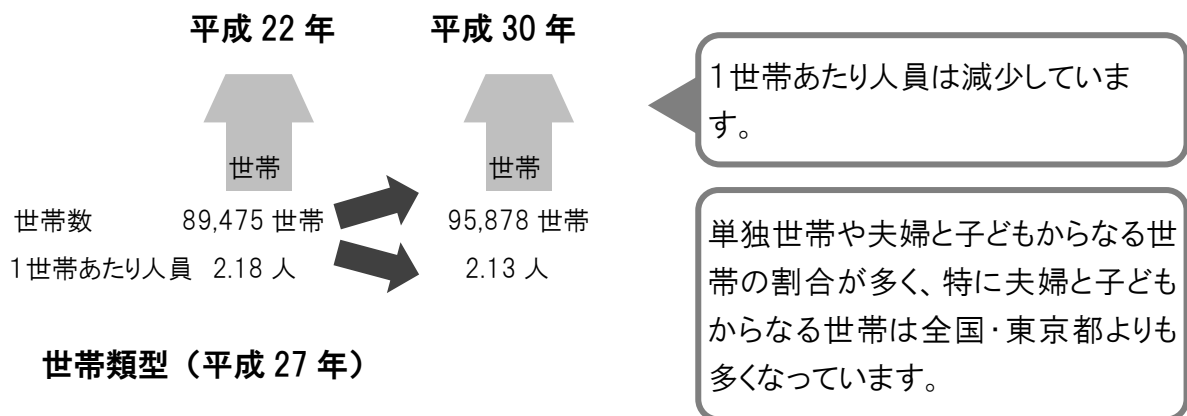


外国籍市民、介護保険認定者、障害者手帳所持者、生活保護受給者の割合は増加しています。

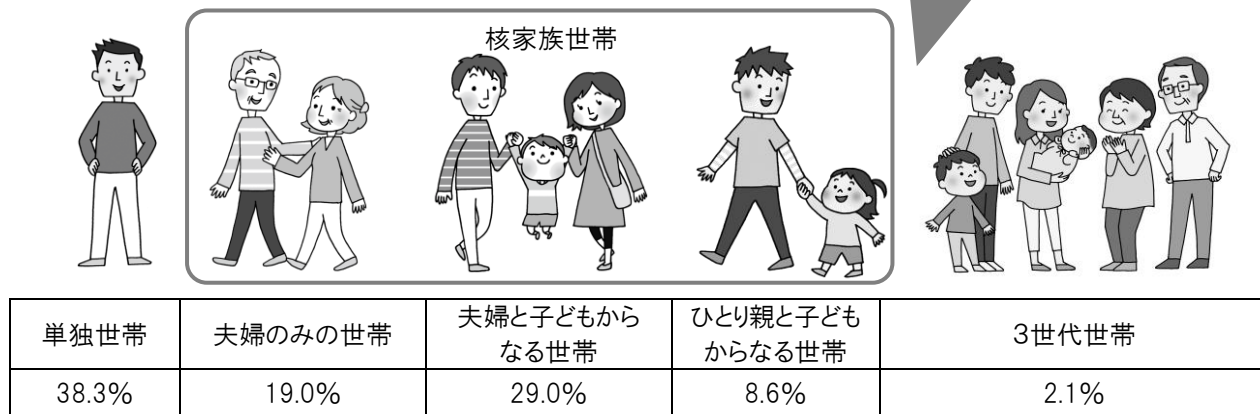
## (2) 人口の変化要因 (平成 28 年)



## (3) 世帯の変化



### 世帯類型 (平成 27 年)



## 2 アンケート調査結果

### (1) 地域の中の関係性



**普段の近所付き合い**は、「顔を合わせれば、あいさつする」が72.0%

**地域での人との付き合い**が「必要だと思う」「まあまあ必要だと思う」は81.8%

8割の人が、近所付き合いが必要だと感じています。



#### 地域の課題

近所との交流が少ない:30.0%  
緊急時にどうしたら良いか分からない:22.0%  
世代間の交流が少ない:17.2%  
地域の活動が活発でない:17.2%  
あいさつをしない人が多い:14.2%

近所や世代間での交流が少ないという課題が多くなっています。

### (2) 助け合い・ボランティア



**日常生活で困ったときに、手助けを頼める人の有無**は、手助けを頼める人がいる:48.3%  
手助けを頼みたいがいない:8.8%



**日常生活が不便になった時、地域の人たちにしてほしいこと**は、

- ①災害時の手助け:39.7%
- ②急病時の対応:36.9%
- ③安否確認の見守り、声かけ:31.7%

日常生活で困ったときに手助けを頼みたいが頼める人がいない人が約1割います。日常生活が不便になった時に地域の人たちにしてほしいことは、いざという時の支援が多くなっています。



**ボランティア活動の経験**は、ある:16.0%  
ない:76.7%

**経験がない理由の最多**は、18~29歳、60~69歳  
→「身近に活動グループや仲間がいないのでよく分からない」  
30~59歳  
→「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」  
70歳以上  
→「健康に自信がないので難しい」



**今後の参加意向**は、参加したい:39.7%

ボランティア活動の経験がない人が大半ですが、今後は参加したい人が約4割と多くなっています。また、経験がない理由は年代により違いがあります。

### (3) 今後の方向性



地域課題をどのような方法で解決するのが良いかは、「住民と行政や専門機関が協力して一緒に解決したい」が58.9%

約6割の人が、地域課題について住民と行政や専門機関が協力して解決したいと回答しています。



住民参加の取組を進める上で必要なこと

- ①活動を支える協力者:50.6%
- ②活動の資金:31.7%
- ③活動者・協力者間の交流・相談の場:29.5%

住民参加の取組を進める上で必要なことは、活動を支える協力者が特に多くなっています。

地域福祉推進のために市が優先的に取り組むべきだと考える施策

<市民からの回答>

- ①分かりやすい情報の提供:37.7%
- ②防災対策の充実:24.6%
- ③防犯対策の充実:21.8%
- ④学校における福祉教育の充実:16.3%
- ⑤人にやさしいまちづくりの推進:15.8%

<民生委員からの回答>

- ①地域における連携体制づくり:41.6%
- ②分かりやすい情報の提供:35.8%
- ③相談支援体制の充実:24.8%
- ④防災対策の充実:23.4%
- ⑤地域における支え合い活動の促進:21.2%

情報提供や相談支援体制の充実、防災・防犯面への取組等を優先すべきとの意見が多くなっています。また、地域における連携体制づくりについても必要とされています。



### 3 地区懇談会結果

#### (1) 地域の中の関係性



- ・地域コミュニティが衰退している
- ・地域を必要と感じていない人が多くなっている
- ・転入・転出が多くつながりがつくりづらい
- ・自治会がない地域がある。ある場合でも機能していなかったり、若い人の加入が少ない

地域のつながりが弱くなっています。



- ・サロンなどの地域の居場所や交流の場所が少ない
- ・場があっても周知されていない
- ・活動団体同士の交流など横のつながりが薄い
- ・空き家が増えているが活用できていない

交流の場が少なかったり、あっても周知されていません。

#### (2) 助け合い・ボランティア



- ・ボランティア活動に取り組む人の高齢化や活動に新しく取り組む人が少ない
- ・ボランティア活動に参加したくとも、新たな活動へ参加しづらい
- ・ふれあいのまちづくり事業やふれまち助け合い活動があまり知られていない

ボランティア活動に取り組む担い手が不足しています。



- ・困りごとがあってもSOSを出さない人や、出せない人がいる
- ・近所付き合いが少ないことや個人情報保護の観点から、困っている人の把握が難しい
- ・制度の狭間の課題で困っている人がいる

困っている人の把握が困難になっています。

### (3) 生活面の不便さ



- ・市や社会福祉協議会のサービスなどの情報が届いていない
- ・近所付き合いが希薄で情報共有する機会がほとんどない
- ・相談先が複雑で分かりづらい、気軽に相談しづらい

必要な支援や相談窓口などの情報が届きにくい状況です。



- ・坂が多く、ちょっとした移動でも大変
- ・近所の商店などが閉店してしまい、徒歩圏内で買い物する場所がなくなっている
- ・公共交通機関等の便が悪く、買物や病院に行くのに不便

交通の便が悪く、買物や通院に不便な地域があります。

### (4) 防災・防犯面



- ・日頃のつながりが無いことから災害時の孤立が心配
- ・災害時の対応方法が分からない
- ・振り込め詐欺や空き巣などの犯罪被害がでている

防災・防犯面などいざという時の対応について不安がでています。

## 4 団体・事業者調査結果

### (1) 団体

#### ①地域の状況



##### 地域の課題

- ①世代間の交流が少ない:42.9%
- ②近所との交流が少ない:28.6%
- ②移動手段が整っていない:28.6%

##### ヒアリング結果

- ・あいさつが少ない、世代間の交流が少ない
- ・色々な場に行ってみてもなじみず孤立している人もいる
- ・情報が届かずサービスに結びつきにくい人がある

地域の中の交流が少ないことや、孤立している人がいます。



##### 地域の中で支援が必要だと感じる人

- ①高齢者のみの世帯:42.9%
- ②閉じこもりや引きこもりの人:35.7%
- ③認知症の人:21.4%
- ③生活困窮者:21.4%

##### ヒアリング結果

- ・8050 問題の世帯が地域にある
- ・支援が必要ということが理解できない人もいる
- ・全世代がとりあえず相談をできる場所があると良い

8050 問題など、多様な課題を抱える人がいます。

#### ②活動状況



##### 活動上の困りごと

- ①リーダーが育たない:50.0%
- ①活動資金が足りない:50.0%
- ③新しいメンバーが入らない:35.7%

##### ヒアリング結果

- ・新しいメンバーが入るような新たな取組が必要
- ・活動者を支援する仕組みが必要
- ・臨時のボランティアはいてもコアメンバーが集まらない

リーダーの育成や新しいメンバーの不足が特に課題となっています。



メンバー募集は、「常に行っている」が 78.6%

##### 情報発信

- ①チラシやパンフレットの配布:64.3%
- ②メンバーなどによる口コミ:50.0%
- ③ホームページや SNS:42.9%

##### ヒアリング結果

- ・口コミやチラシによる情報発信を行っている団体が多い
- ・ホームページやSNSでメンバーが増えている団体がある
- ・分野によってはメンバーが集まりやすい団体もある

メンバー募集は常に行っており、多様な媒体で情報発信をしている団体が多くなっています。



## (2) 事業者

### ①地域の状況



#### 地域の課題

- ①サービスに結びついていない人がいる:53.3%
- ②近所との交流が少ない:46.7%
- ③地域から孤立している人がいる:40.0%

#### ヒアリング結果

- ・つながりを持っている人は多くの居場所等に行く反面、つながりを持たない人は全く持っていないという両極端な傾向
- ・インフォーマルなサービスが少ない
- ・交通の便が悪く、外出の妨げとなっている地域もある

地域とのつながりが薄れる中で、サービスに結びついていない人、孤立している人が多くなっています。

### ②地域活動の状況



#### 現在行っている地域活動

- ①ボランティアの受け入れ:73.3%
- ②研修会・学習会などへの講師派遣:33.3%
- ③施設の一部開放や物品等の貸し出し:26.7%

#### 地域活動を進める上で市に期待すること

- ①地域における施設と住民をつなぐコーディネーターの配置:73.3%
- ②活動資金確保に向けた支援の充実:46.7%
- ③施設、住民を含めたネットワークづくり:40.0%
- ③施設と地域の連携協働に関わる意見交換の場づくり:40.0%

#### ヒアリング結果

- ・地域活動を行いたくても、地域で何が求められているかや、どの様に行ったら良いかの情報や相談先がない
- ・多問題の場合1事業者のみでの対応が難しいこともあるが、事業者同士の横のつながりがいい
- ・事業者と地域をつなぐ場があると良い
- ・地域活動に関する事例集があると良い

既に地域とともに活動を行っている事業者は多くありますが、活動するにあたり地域の課題や実際に取り組んでいく上での情報や相談相手が必要とされています。

### ③サービスの質の向上



#### 質の向上のために取り組んでいること

- ①サービス提供にかかる職員研修の実施:86.7%
- ①個人情報保護・管理の徹底:86.7%
- ③相談窓口の設置などの環境整備:60.0%
- ③利用者への情報提供の充実:60.0%
- ③施設・設備等の充実:60.0%

#### ヒアリング結果

- ・独自研修や資格取得支援を行っている事業者が多い
- ・福祉サービス第三者評価や満足度調査等を実施している事業者もある

各事業者においてサービスの質の向上のための取組を行っています。



## 5 西東京市の現状から見える課題

現在の市の状況とアンケート調査や地区懇談会の結果などを踏まえ、本計画では以下の3つの点を特に大きな課題として捉え、検討していきます。

### ●地域のつながりが希薄化しています



隣近所の付き合いが少なく、交流の場も少なく感じます。近所や地域とのつながりが少ないことで、孤立してしまっている人もいます。地域で活動する団体や事業者同士の横のつながりも薄いです。

市ではこれまでも様々な取組を通じて、多様な地域でのつながりづくりに取り組んできました。一方で、地域のつながりが希薄化しているということは、以前から指摘されており、つながりが希薄であるという市民の実感は大きく変わっていないのが現状です。また、地域における住民同士のつながりづくりに加え、地域で活動する団体・事業者同士の横の連携、住民と団体事業者とのつながりづくりについても一層促進していく必要があります。



### ●相談先が分からない人が多くいます



相談先が複雑で分かりづらく感じます。ちょっとした困りごとでも気軽に相談できると良いです。団体や事業者も地域で活動する際に相談先がなく困っているようです。

これまでほっとネットにより、地域福祉コーディネーターに困りごとを相談できる体制をつくってきたほか、各分野の相談も実施していますが、多問題ケースなどの分野横断的な相談体制の整備と、その周知が必要となっています。また、活動者を支えるための支援の充実も必要です。



### ●必要な人に必要な情報が行き届いていません



市では色々な助け合いの活動やサービスがあるようですが、必要になった時にその情報が得にくいです。情報を受け取る側にとって分かりやすい情報発信をしてほしいです。

市としての情報発信は様々な媒体を用いながら行っていますが、依然として必要な人に必要な情報が届いていないという声もあります。情報を受け取る側の立場に立ったよりきめ細やかな発信の工夫が必要です。

